

◆はじめに◆

ニーズリサーチプロジェクトは、東社協として直接利用者等の声を聴く機会を持ち、その声をきちんと評価・分析し、東社協としての事業化、関係機関や行政等への提言につなげていく仕組みを構築しようとする「東社協3カ年アクションプラン」に位置づけられた事業のひとつです。その第一弾として、昨年度は「判断能力が不十分な方の地域生活支援」をテーマとし、ホットラインやヒアリングを実施し、「高齢者・障害者の声から生まれた3つの提言」を報告書としてまとめました。判断能力が不十分なために、自ら適切な福祉サービスを利用することや自分の権利を主張することが難しい方々の、声にならない声を集め、発信していくことを目的として取り組みました。

今年度のニーズリサーチプロジェクトのターゲットは子どもです。子どもが生活上の問題や悩みを抱えたとしても、自分から問題を整理し、専門機関等に相談したり、発信したりすることはとても難しく、周囲の大人が気づき、支援していく必要があります。ところが、こうした支援を受けながら安心して成長する場であるはずの家庭のありようは、核家族化・個人主義化の進行やライフスタイルの多様化などにより、様々になっています。そして地域社会での人間関係の希薄化や社会的孤立が進み、さらに不況の影響による不安定雇用や所得格差も進んでいます。家庭を取り巻く環境は厳しい状況にあり、子どもたちにその影響は少なからず出ているといえるでしょう。こうした中、子どもたちに今何が起きているのか、子どもが育つ家庭や学校とともに、地域社会からできることは何か、こうしたことを明らかにするために、ニーズリサーチプロジェクトに取り組んできました。

ホットラインやメールにより寄せていただいた貴重な声をもとに、提言として多くの関係者に発信していくことで、子どもの育ちを少しでも豊かにしていくことに寄与できれば幸いです。

最後になりましたが、本プロジェクトを進めるにあたり、多大なご協力をいただいた企画会議メンバーの方々や相談スタッフを担っていただいた方々、並びにご協力いただきました関係各位に心からお礼を申し上げます。

2009年3月

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会
事務局長 野村 寛

Contents

はじめに

第1章 ニーズリサーチプロジェクトの概要	1
-----------------------------------	---

第2章 ホットラインから見えてきた課題

1) 地域で孤立し子育ての情報交換ができない.....	6
2) 親が安心して愚痴や不満を出せる相談相手が周りにいない.....	7
3) 問題解決のプロセスで、親と、学校・子どもの支援機関が対立関係に陥ってしまう.....	8
4) 親自身が障害や病気などの問題を抱えている／夫婦関係や家庭に問題を抱えている.....	9
5) 子ども自身が障害や病気などを抱えている.....	10
6) いじめだけでなく、その周辺問題やいじめから派生する問題が重なって問題が複雑化・深刻化する.....	11

第3章 ニーズリサーチプロジェクトからの提言

提言1 親の立場に寄り添い、 親の気持ちを支えることを明確に謳った包括的相談機能を構築する.....	14
提言2 子どもや家庭の問題発見・解決を、 学校や支援機関と地域で支える仕組みを構築する.....	18
提言3 子どもの様々な居場所を重層的に用意する.....	21

資料編

資料1 ホットライン統計結果.....	26
資料2 ホットライン記録票（様式）.....	31
資料3 ホットラインチラシ.....	36
資料4 企画会議委員名簿等.....	38